

激しく熱い情事—それは悪女がしかけた甘い罠!

BODY HEAT



・白いドレスの女・

ウィリアム・ハート

キャサリン・ターナー/リチャード・クレンナ

脚本・監督:ローレンス・カスダン/製作:フレッド・T・ガロ



A Ladd Company Release Through Warner Bros. A Warner Communications Company ラッド・カンパニー作品/ワーナー・ブラザーズ映画配給/パナビジョン®/テクニカラー®

※かいせつ

人間の奥底にじりじりと燃え上がる物欲と情欲。そのしがらみにがんじがらめになって、運命の淵を転落してゆく男と女――。

「スター・ウォーズ帝国の逆襲」「レイダース/失われたアーク」の鬼オライターの、ローレンス・カスダンが、注目の監督デビューを飾る愛とセックスのサスペンス。きびきびした台詞、刺激的なプロット、煽情的なヒーローとヒロイン像。「アメリカ映画期待のニューパワーが、80年代スクリーンにハードでグルーミーな世界を描き切った！」と全米マスコミ界の絶賛をあびた注目の話題作がこの『白いドレスの女』だ。

ウィリアム・ハート、キャサリン・ターナーというフレッシュで才能あふれる2大スターを得、人間の本性の会話が展開するスリリングな物語は、最後の意外



な結末まで観客をとらえて放さない魅力にみちている。

音楽は「007」シリーズや近作「ある日どこかで」の巨匠ジョン・バリー。主題歌をカントリー・ロックの人気者ボブ・シーガーが歌っているのも話題。「コンペティション」「ラスト・レター」の名カメラマン、リチャード・クラインが、うたかたに消えた男と女の愛と夢を鮮烈なトーンで映像化している。

※82年は《悪女》の魅力が輝く年!

ワルい女…それは男を破滅にみちびく女だ。男をとらえて離さない不思議な魅力がある…その意味では悪女というより、魔性の女といったほうがいいかも知れない。日本の場合、悪女と呼ばれた女性たちは大抵が相手の男と共に堕ちてゆくといったパターンで、どうしても暗く陰湿なイメージが残るのだが、ここに登場する悪女は、「快感」さえ感じさせるスマートで小気味のいいワルさ加減、こんな女性に出会ったら、ウィリアム・ハートではないが、男は苦笑するしかないのかも…

燃え上がる情欲を本能のままぶつけて少しも嫌らしさを感じさせない凄さと、何よりもクールな頭の良さこそ、新しい悪女の条件なのだ。

貴女も女性の魅力をもう一度考えなおしてみませんか?

※話題の新星キャサリン・ターナー

ハート演じるネッド・ラシーンを、奈落に引きずりこむ魔性の女マティ・ウォーカー。この作品がデビューのキャサリン・ターナーはNBCの人気番組「The Doctors」のノラ・オールドリッチ役で耳目を集めた新人。やや斜視がかった引き込まれるような目線。官能的なハスキー・ボイス。監督のカスダンいわく「信じられない美しさを持った素晴らしい才能の女優」。絶頂期のジョン・クロフォードやローレン・バコールをほうふつとさせる「本格派グラマー」だ。



白いドレスの女



BODY HEAT

ネッド・ラシーン……………ウィリアム・ハート
マティ・ウォーカー……………キャサリン・ターナー
エドモンド・ウォーカー……………リチャード・クレナ
監督・脚本ローレンス・カスダン/音楽ジョン・バリー

A Ladd Company Release
Through Warner Bros. A Warner Communications Company

※ハリウッドに新風を吹き込む ローレンス・カスダンという男

監督・脚本のカスダンは、ベテラン脚本家リー・ブラケット女史(「三つ数えろ」「ハタリ!」)の急死により、この世界における幸運の切符を手に入れた。作品は「スター・ウォーズ/帝国の逆襲」。ブラケットの後任として彼を抜擢したのはジョージ・ルーカス。その並々ならぬ力量に刮目したルーカスは、次にスピルバーグと組んだ「レイダース/失われたアーク」にカスダンの名をクレジットした。ここ2、3年の間にハリウッドの歴史に残るスーパー・ヒット作2本の成功に関与した男、それが今年32才のカスダンだ。

1970年にミシガン州立大を卒業して以来、彼の野望は、監督/脚本家としての大成に向けられた。最初に取り上げたオリジナル・シナリオ「The Bodyguard」が

※ストーリー

フロリダ…ミランダ・ビーチ、弁護士ネッド・ラシーンは、やりきれない暑さの中で若い肢体をもてあましていた。そんな彼の前に現われた美女マティ、暑さまでを無視したような彼女のクールさと白いドレスがネッドの脳裏に焼きついた。

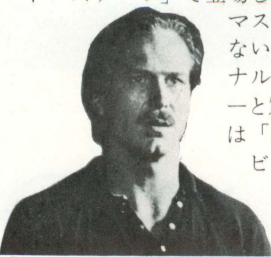
留守がちで年の離れた実業家の夫との生活に不満を持っていた彼女が、強引なネッドの激情に落ちるのに時間はかからなかった。一度抱かれてしまえば、堕ちて行くのは早い。2人は燃えるような官能の世界にのめり込んでいった……。

行きつく所は何処も同じ、莫大な財産と、誰はばかる事なく彼女を抱くために、彼女の夫を殺そうという殺意が燃える。周到な計画が練られ、実行されていく。

盛り上がるサスペンスの中で女のあさはかな欲望が事件の破綻を浮かび上がらせた時、意外な結末へと物語は突入する。

※人気急上昇ウィリアム・ハート

「アルタード・ステーツ」で衝撃のデビューを見せ、ピーター・イエーツの『目撃者』を経て、これが主演3作目のハートは、1950年生まれの31才。サークル・レバートリー・カンパニーに所属して、77~78年シーズンにはオビー賞、シアター・ワールド賞に輝いた演技派。「アルタード・ステーツ」で登場した彼を、全米マスコミはかつてないセンセーショナルな映画デビューと驚嘆。タイム誌は「80年代のムービー・アイドル」とその資質に大鼓判を押している。



ハリウッドに売れ、次の『分水嶺』はつい最近、売れっ子ジョン・ベルーシ主演、彼の監督で映画化が完成した。ルーカスとともに、彼の才能を認めたアラン・ラッド・ジュニアの推挙により、「白いドレスの女」は彼の華々しい監督デビュー作となった。パワフルな筆力と精緻な人間描写で80年代期待の才人だ。



ローレンス・カスダン ウィリアム・ハート

2月27日ロードショー

特別鑑賞券¥1200(当 一般¥1500 学生¥1300の処)発売中!

国電有楽町
地下鉄銀座下車

丸の内松竹 (201)

3720

日・祝	10:00	平日	12:00	2:20	4:40	7:00
-----	-------	----	-------	------	------	------